
-孤独- 【ある日思った事】編(特別編)

naokiblog

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

- 孤独 - 【ある日思った事】編（特別編）

【Nコード】

N8923P

【作者名】

naokiblog

【あらすじ】

特別編なのであらすじは有りませんので、予めご了承ください。

（前書き）

この小説はノンフィクションです。

俺はある日、ふと思った。

「・・・（この先に俺を理解してくれる人は居るのだろうか・・・。
今の俺は、「あの時」の俺ではない）。」

その「あの時」とは例の小学校に転校した時の俺である。

そう、俺はもうあんなに優しくかった時の心を今は忘れてしまっている・・・。

そう思った時、ある記憶が蘇った。

「誰か、この荷物運ぶの手伝ってくれませんか？」

小学二年生の時の担任の先生が休み時間中に言った。

すると、俺は・・・

「はい。僕が手伝います！」

そんな気配りや手伝いが大好きな俺の記憶だった。

共に「優しさ」という物もその気配りや手伝いに込められていた。
では、何故「あの時」では無い俺が存在しているのだろうか。

何事も無ければ「あの時」の俺という存在で有れたかもしれない。

――答えは簡単である。

「イジメ」という「孤独」の存在する世界に数年閉じ込められたからである。

そしてそれに「心」という物の一欠片をズタズタに引き裂かれた。

それが真実だ、俺はそう思う。

もしも、俺を理解してくれる人が居るならばその人は・・・

俺にとって「命の恩人」になるだろう。

そう、「心」というどんな人間にとっても失ってはいけない「命」
の・・・。

だから俺はその「命の恩人」が現れるまで生きて生きたいと思う。
それに人間はあと数年で「永遠の命」を手に入れられるかもしれない。

そちらの方にも思いを託して生きて生きたいと思う。

俺は――絶対に死にたくない！

（後書き）

実はこれ今日思った事が元ネタなんですよね（^O^）/。

そこから何か段々書いて来ちゃったので、載せる事にしました。

では、Twitterの方もやってるので良ければフォローなどなど宜しくお願いします！

<http://twitter.com/naokiblog>

あ、それと・・・！

遅れましたが、新年明けましておめでとう御座います！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8923p/>

-孤独- 【ある日思った事】編(特別編)

2011年1月8日22時50分発行